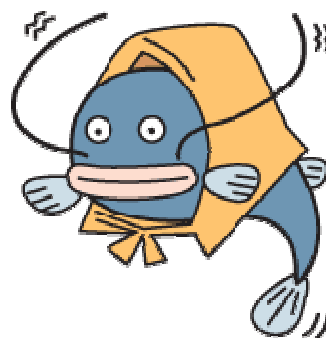


緊急地震速報 なますきん

マンスリー レポート
2007年7月号



なますきんの働き (2007年6月)

【発信数概要】

緊急地震速報（速報）が 62 個の地震に対し発信され、総数は 379 通でした。地震数は 5 月と同程度でしたが、発信数は 5 月の約 3 割増でした。また、推定震度 4 以上を報じた地震は 6 個で、5 月と同数でした。

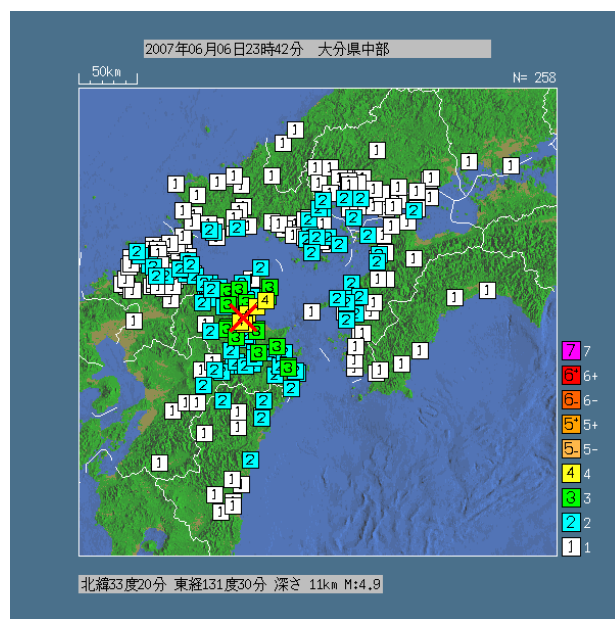
なお、本期間には、震度 5 弱を推定した「誤報」が 1 回ありました。誤報の原因等については、<http://www.seisvol.kishou.go.jp/eq/EEW/kaisetsu/200608/200706182049.pdf> を参照願います。

【大分県中部の地震】

6月6日22時43分のM4.9（深さ11km、最大震度4）を最大として、大分県中部に地震が多発しました。同域における地震活動は、翌7日17時22分にM4.7（深さ9km、最大震度4）、同20時50分にM4.7（深さ8km、最大震度4、発生地域名は伊予灘）の地震が発生するなど、数日間活発でしたが、以後、次第に減衰しました。

M4.9の地震では、地震発生の約7秒後に地震波が検知され、その約3秒後に第1報が発表されましたが、震度4などが観測された震源直上の市町

村には間に合いませんでした。



大分県中部の地震（6月6日）の震度分布（気象庁）

震度4以上を発信または観測した地震(2007年6月)

日	時分	地域名	深さ (km)	マグニ チュード (M)	速報 発信数	速報最大震度 (回数)	観測最大震度 (地点数)
1	11:42	静岡県西部	13	4.3	10	4(4)	4(1)
2	14:43	茨城県南部	50	4.6	8	3(8)	4(13)
6	23:43	大分県中部	11	4.9	10	4(9)	4(5)
7	17:22	大分県中部	9	4.7	9	5-(3)	4(2)
7	20:50	伊予灘	8	4.7	7	4(6)	4(3)
11	03:45	能登半島沖	7	5.0	9	5-(2)	4(5)
22	03:34	石川県西方沖	8	4.6	9	5-(4)	4(3)
23	23:53	茨城県沖	53	4.2	7	3(6)	4(2)
28	18:26	東京都多摩西部	15	4.1	9	3(9)	4(1)

8月のおもな被害地震

発生日	発成年	北緯(度)	東経(度)	M	地震名または震央地名	死者数	最大震度
2日	昭和15年(1940年)	44.25	139.5	7.5	神威岬沖地震	10	4**
9日 10日	明治34年(1901年)	40.5	142.5	7.2 7.4	青森県東方沖	死傷 18	5~***
14日	明治42年(1902年)	35.4	136.3	6.8	姉川地震	41	5~***
19日	昭和36年(1961年)	36.0	136.8	7.0	北美濃地震	8	4*
31日	明治29年(1896年)	39.5	140.7	7.2	陸羽地震	205	5~***

明治以降に死者・行方不明者を出した地震・津波および気象庁が命名した地震

最大震度は、0、1、2、3、4、5弱、5強、6弱、6強、7の10階級。ただし、

* 0から7の8階級

** 0から6の7階級

*** 微、弱、強、烈の4段階で、それぞれ現在の震度の1、2~3、4、5以上に相当

1. 神威岬沖地震

積丹半島の先端に位置する神威岬の北西150kmほど離れた海域を震源とする地震だったため、最大震度は4で地震動による被害はありませんでしたが、前月号で紹介した「平成5年北海道南西沖地震」と同様に、東西方向の圧縮力により発生した逆断層地震のため北海道西岸に2~3mの津波が押し寄せ、留萌支庁一天塩付近で死者をはじめとする被害を生じました。

2. 北美濃地震

14時33分頃、岐阜・富山県境の山間部に起こった地震のため、山崩れ、落石などによる被害が多く発生しました。

石川県自然解説員研究会の山下光信さんは、“黒ボコ岩が落ちてきたらどうしよう”“北美濃地震 白山ゆれる”と題して、

http://association.kan-hakusan.jp/images/20060731_08.pdf に、次のように記しています。

新聞記事によると「白山では落石などのため4人が死亡、8人が重軽傷、登山中の102人は室堂に避難した」となっています。

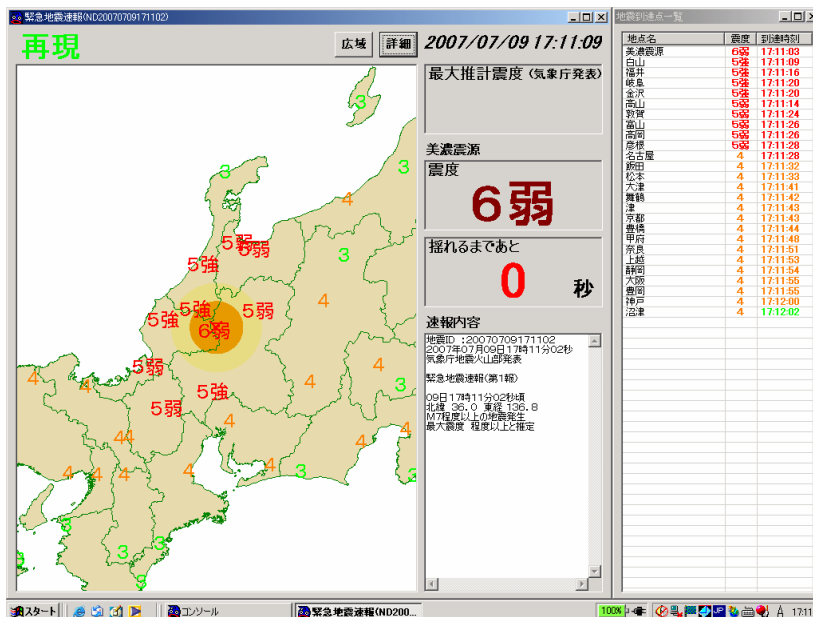
各地の震度は、震度4：福井・名古屋、震度3：金沢・輪島・富山・岐阜・長野・京都となっていますが、白山付近では黒ボコ岩が落ちたことから考えると、震度5強以上ではないかと考えられます。

下図は、北美濃地震を“なまずきん”により再現してみたものですが、震央付近では、「震度6弱」と推定され、黒ボコ岩や多くの山崩れや落石を引き起こした震動の強さを裏付けるものとなっています。また、当時の震度観測は、気象官署において体感等により判定していたため、最大震度は4でしたが、今日の震度計による観測網では、震央付近だけでなく周辺地域でも震度5弱以上の強い揺れが観測されることを示唆しています。

なお、震度5弱以上の揺れになると推定された地域への地震発生時刻からの主要動到達時間は、以下の表のとおりです。

	推定震度	時間(秒)
福井	震度5強	14
岐阜	同上	18
金沢	同上	18
高山	震度5弱	12
敦賀	同上	22
富山	同上	24
高岡	同上	24
彦根	同上	26

地震発生時刻から緊急地震速報が発表されるまでの時間を差し引いた時間が、主要動到達までの猶予時間ということになります。



一般向け緊急地震速報を10月1日から発表

気象庁は、6月21日、「緊急地震速報の一般への提供開始予定日を本年10月1日とする」と発表しました。

平成18年8月1日より開始されてきた、緊急地震速報の特定利用者に対する先行的な発表条件との違いは、下記及び下図のとおりです。

● 現行の特定利用者に対する

緊急地震速報の発表条件●

- ① マグニチュードが3.5以上、または、
- ② 最大震度が3以上と推定された場合に、
- ③ 新たな情報が得られる毎に発表されます。

● 一般向け緊急地震速報の発表条件●

- ① 地震波が2点以上の地震計で観測され、
- ② 最大震度が5弱と推定された場合、
- ③ 原則として一つの地震に対して1回だけ発表します。

また、発表する内容は、

- ① 地震発生時刻、
- ② 地震の震央（地名と緯度・経度）、
- ③ 震度5弱以上が推定される地域及び震度4が推定される地域、となっています。ただし、具体的な推定震度は発表せず、「強い揺れの

おそれがある地域として発表します。また、主要動が到達するまでの猶予時間は発表しません。

”なまずきん” 端末でも一般向け速報を受信出来る様に対応中

一般向け緊急地震速報の伝達手段としては、当面はテレビ、ラジオ等の放送が大きな役割を果たすものと考えられていますが、これらだけですべての住民に迅速に情報伝達することは困難で、今後は、何らかの形で住民に緊急地震速報を迅速に伝達できる環境を構築していくことが求められています。

IP-v6 マルチキャスト配信による個人向け緊急地震速報モデル実験（なまずきん Desktop 実験）は、平成18年12月4日から実施されています。「なまずきん Desktop 実験」そのものは、9月30日で終了することになりますが、(株)NTTコミュニケーションズ並びに(株)ハレックスでは、一般向け緊急地震速報の提供が開始される10月1日以降においても、“なまずきん” 端末で一般向け速報を受信できるよう、準備を進めています。

